恵まれない大学生の教育達成に関する考察
―中国人大学生に対するインタビュー調査から―

呉　雨婷

Abstract

In a stratified society, the topic of "whether children from poor families can achieve educational success" has been increasingly discussed in Chinese academia. For children from poor families, education is their chance to change their destiny. This paper explores how university students from poor families gain educational achievement in a qualitative study. Through interviews with three university students with different backgrounds from a university in Beijing and Yunnan Province, and using semi-open-ended interviews, we learned that bonding social capital mediated through parent-child relationship, emotional support given by parents, bridging social capital, and poor-class Cultural capital specific to the underprivileged, and champs and habitats can help underprivileged university students achieve educational success. It is believed that in a heterogeneous society, even if a family is poor, it is still possible to achieve educational attainment through one's own efforts and the emotional support of parents, or by making good use of capital both within and outside the family.

キーワード……寒門難出貴子　社会関係資本　文化資本　貧困層

1. はじめに

中国人は教育を重視すると言われてきた。近年、中国では「寒門難出貴子」（訳：恵まれていない家庭で生まれ育った大学生は優秀な者になれない）という言葉が流行している。「寒門」とは「恵まれていない家庭」のことをいう。「寒門」の定義について、余秀蘭・韓燕（2018）は「寒門」を「貧困層にある家庭」と定義し、曾東霞（2019）、王兆鑫・趙新生・宋文玉（2022）は「貧困で農村部にある家庭」を「寒門」と認めた。本研究では、「非都市部で貧困層にある家庭」を「寒門」とする。また、「寒門難出貴子」の社会学的意味は、家庭背景は教育達成に影響を与えること、つまり階層移動が難しくなることである（余ら 2018）。

教育は社会移動の手段であると言われているが、なぜ「寒門難出貴子」となるのか。中国では 1978 年改革開放以来、社会移動が増加し、多くの中間層が誕生した。その中間層は教育或いは起業を通じて懸命に貧困層から階層を上昇し、二度と元の階層に戻りたくないという気持ちが強い。劉俊利（2019）によると、中間層にある親たちは自分の財と社会地位を維持したり、

或いは卑下感を消すため、大量の金銭と時間を子供の教育に投入している。中間層の拡大とその教育に対する不安は教育熱の原因の一つとされている（陳嘉怡 2022）。「教育熱」の社会背景についての研究では経済資本が多く社会地位が高い家庭は子供の教育に関する投資が多く、教育達成に関する情報を多く手に入れられるため、経済資本が少なく社会地位が低い家庭との格差が大きくなると指摘される（童馨楽・潘妍・楊向陽 2019）。逆に、低収入の家庭では経済的制限が大きいため、子供の教育に関する投資は少ないとされる（張継平・馬会麗 2023）。さらに、親の学歴と社会的地位が低い場合、親は豊かな社会関係（コネ）がなく、子供の教育に関する情報を手に入れることができない。それは教育達成に不利な要因となっている。貧困層にある親たちは稼いだお金の多くを生活費に回すため、たとえ子供の勉強を支えたいという気持ちが強くても多くのお金を教育に投入することが難しい。子供が大学に入ったとしても大部分の親たちは大学に通ったことがなく、大学での教育についてわからない場合が多い。貧困家庭出身の大学生は勉学の面でも進路選択の際にも親からアドバイスすら得られない可能性が高い。

貧困層出身の子供は、長期間貧しい生活を過ごしており、高い志を抱いたとしても必要とするコネや金銭、経験がなく、教えてくれる人ももたない。現実には多くの障壁があり、その壁は簡単に努力で乗り越えられない。あるいは、志を持っていても、失敗のコストが高すぎるため、失敗することを恐れてしまう。一例として、大学受験に臨む高校生の例を挙げたい。中国の貧困層の子供たちにとって、大学受験は階層上昇の唯一の道であるといっても言いすぎではない。たとえ大学増設のため、学士号の価値が昔より低くなっても、教育は依然として社会移動と貧困状況を変える方法である（林莞娟・張戈 2015，趙紅霞・高永超 2016）。大学を卒業したとしても良い仕事を見つけられない可能性もあるが、それでも「大学生」という身分は明るい未来の証とされている。それを手に入れるためのストレスの下で、貧困層の子供たちは必死に勉強している。一部の高校生は、ストレスが高すぎるあまり鬱病などにかかってしまうという。彼らにとって、大学受験は「運命を変える」チャンスであり、失敗は許されない。このような残酷な道を通過して、大学に合格した大学生は「選ばれた存在」である。しかし、大学入学後は、これまで過ごしていた環境と異なり、大学生活の過ごし方も他の学生とは異なるため、貧困層の大学生は大学に入っても、他人と「違う」ことから卑下感を持っているケースもある（劉玲 2020）。或いは、新しい環境で親や親戚から十分なサポートが不足し、どのように対応すべきか迷っている場合もある。

このような厳しい状況下において、恵まれない家庭の出身であっても大学に合格し良い成績を保つという教育達成を実現することができる大学生は、小さい頃からどのような意識を持ち努力しているのだろうか、また具体的にはどのような努力をしているのだろうか。本稿では特に、親や親戚がどのような教育意識を持っているか、「重要な他者」が子供に何をしてくれるかに注目する。「寒門」出身の「貴子」のライフストーリーを調査し、彼らが「運命」とどのように戦ってきたのかを記述する。そして、格差社会において、恵まれない家庭出身の中国人大学

生が教育達成を実現したプロセスを明らかにしたい。

2. 先行研究と課題の設定

2.1 文化資本の再生産と流動性及びそこから生まれたハビトゥスと界

P.Bourdieu, J.C.Passeron(1970＝1991)の「文化的再生産」論は、エリート層が文化資本を占有し、それを子供に継承させることで子供の学業成績に良い影響を与えることを明らかにする。また、「界」（champ）とハビトゥスの概念を用い、エリート層の子供は家庭、学校という「界」でエリート層特有のハビトゥスを習得して文化的再生産を行うとする。これにより、恵まれている子供は教育達成の上で有利となり、中国の状況では「寒門難出貴子」となる。

しかし、P.Dimaggio(1982)は Bourdieu の「文化資本は子供の学業成績に影響する」という観点を認めるが、文化資本はエリート層に占有されるものだけではなく貧困層の子供が積極的に文化資本を獲得することも教育達成に影響を与えるを示した。すなわち文化資本には流動性がある。その一方、中国の研究者、程猛・康永久（2016）によると貧困層の大学生が教育達成を実現する鍵はエリート層の文化資本を獲得することにあるのではなく、貧困層に特有の文化資本を活用することにある。貧困層に特有の文化資本とは運命を変える気、親が生活のため大変であることを了解した上で家族のために努力する気持ち、知識あるいは教師に対する尊敬感と畏敬の念であるという。それにより恵まれない子供が教育達成を実現できるとしている。

本稿は 3 名の大学生のライフストーリーを検討し、学校と大学という「界」の中で、資本に恵まれない大学生がどのようなハビトゥスを身につけ教育達成を実現するかを明らかにする。

2.2 結束型社会関係資本（親子関係を含む）と橋渡し型社会関係資本

1990 年代以降、人と人との間の「絆」の意識が高まっている。この絆は社会科学の文脈では、社会関係資本（Social Capital; 以下 SC と表記する）として検討されてきた。SC は単一の概念ではなく、資本が与えられる関係性による区別が知られている。R.Patnum(2000=2006：19−20)はネットワーク論を踏まえ、SC を結束型 SC と橋渡し型 SC に分類した。結束型 SC は「内向き」で特定の互酬性があり連帯を強化する一方、橋渡し型 SC は「外向き」で家庭などを跨いだネットワークの繋がりであると述べた。大学生の結束型 SC と橋渡し型 SC に関する操作化について、呉雨婷（2022）は親、親戚を大学生の結束型 SC とし、教師、恋人と友達など家庭外の存在を橋渡し型 SC とした。本稿ではそれを踏まえて結束型 SC と橋渡し型 SC について考察していく。

結束型 SC が教育達成に与える影響について、呉（2022）は中国人大学生への調査を分析し、親の結束型 SC が GPA に影響を与えること、すなわち中国人大学生の親が配偶者、家族などと大学生のことを相談することが多いほど大学生の GPA にプラスの影響を与えることを明らかにした。また大学生の学習意欲が高いほど、親の結束型 SC と GPA の相関関係は強くなる。大

学生の所有する結束型 SC としては、特に親が重要な存在であり、親子関係と教育達成について、呂素珍・黄修文（2021）は、親子関係は大学生の勉強に対する投入時間、成績を上げる際に必要な能力などに正の影響を与えることを示した。さらに、J.Coleman(1988=2006：223)もまた親子関係が良いことが教育達成に影響することを指摘した。これらの研究から、親子関係が良ければ、親の SC は子供の SC に影響し、さらに成績に良い影響を与えることがうかがえる。一方、中国では親の職業などと SC を対応させる場合が多く、曹春春（2013）は親、親戚の社会地位が高いほど SC が多く、教育に有利な影響を与えることを指摘した。曹（2013）は親の職種を SC としたが、恵まれない大学生の親は職業威信スコアが高くない職に就いている場合が多い。これらは量的な調査による関連を示すものであるため、本稿では質的調査により、親の職業威信スコアが高くない大学生を対象として、幼少期から現在に至るまで、親子関係が教育達成にどのような影響を与えてきたのか、そのプロセスを明らかにしたい。

一方、橋渡し型 SC と教育達成の相関関係について、呉（2022）は中国人大学生の橋渡し型 SC が学習意欲に影響することを示した。親以外のネットワーク、すなわち教師、恋人、友達などとの橋渡し型 SC は大学生の学習意欲に影響していた。大学生の学習意欲には、家庭以外の「界」にいる教師、恋人や友達などから習得したハビトゥスと獲得した資本が影響を与えるようである。しかし、恵まれない大学生に対しては、橋渡し型 SC がどのような結果を示すのか明らかになっていない。平塚眞樹（2006）は橋渡し型 SC は中流クラスの子供が独占する資本であり、その家族、友人などや彼らから紹介された関係・情報などを組み合わせることで進学などに活用されると指摘した。もし中国でも橋渡し型 SC が中流クラスに独占されているならば、恵まれない大学生にとって、家族からの結束型 SC が不足する時、家族を跨いで他の集団から得られる橋渡し型SCが彼らの教育達成に積極的な影響を与えることはないと推定される。

2.3「重要な他者」と教育達成について

「重要な他者」という言葉は心理学者の H.S.サリヴァンが提唱し、生活の中で影響を与える者を指す。ウィスコンシンモデル（Sewell et al.1969 など）は、親、教師、友人などの「重要な他者」が教育達成に影響を与えることを明らかにした。中国では、「重要な他者」が教育達成に与える影響について以下の研究がある。田晨（2020）により、「重要な他者」は大学生の学業に強い影響を与えるが、影響の程度は大学生の背景により違うことが指摘された。唐彬（2009）によると、親は大学生の成長に影響を与えるが、教師、クラスメート、友達は大学生への影響程度が高い。楊一婷（2019）は教師が大学生の教育達成に多大な役割を担っていると明らかにした。余ら（2018）は恵まれない子供が教育達成を実現する時、「重要な他者」との付き合いから資本の不足を補充すると指摘した。これらの研究から親、教師、友達などの「重要な他者」は中国の大学生に積極的な影響を与えるといえる。しかし、大学生が他者を「重要な他者」とする要因は何であろうか。中国のどのような大学生が、誰を「重要な他者」とするのかについ

て、本研究のライフストーリー分析を通して新たな知見を提出したい。

3. 調査の概要

3.1 調査概要とインタビュー対象者の属性

2023 年 3 月～6 月に北京市、上海市、広東省珠海市、江西省南昌市、山西省長治市と雲南省昆明市における九つの大学で 26 人の大学生にインタビュー調査を実施した。中国の大学における実際の状況を把握するため全国の各レベルの大学をカバーした。その九つの大学の内訳は、985 レベルの大学[1)]が二校、211 レベルの大学[2)]が一校、一本レベルの大学[3)]が二校、二本レベルの大学[4)]が三校、三本レベルの大学[5)]が一校である。インタビュー対象者を探す際、直接経済力を聞くことは難しいため各大学で都市部（県庁所在地都市、都市）と非都市部（カウンティ[6)]、タウンシップ[7)]、農村部）を区別し、親の職業は職業威信スコアが高い大学生と低い大学生を対象として探した。なお北京市と上海市という特大都市では地元・非地元出身を区別して選んだ。

本研究は、経済的、教育環境的に恵まれていなくても教育達成が実現されることを明らかにすることを目指す。そのため、インタビューをした 26 人の中の 3 人を選び、分析する。その 3 人（A24、A25、A26）を選んだ理由は以下である。3 人とも経済資本が多くない家庭で生まれ育った。A24 と A25 は非都市部出身で北京最上位の大学に合格した。A26 は最上位の大学には合格していないものの、両親がいないケースでありながら自力で四年制大学に合格した。3 人とも恵まれない家庭出身で教育達成を実現したといえる。出身地域について、非都市部出身の大学生を選んだ理由は以下の二つである。一つ目は、中国では、「寒門」、「恵まれていない」を定義する際、地域要因で「農村部」出身の家庭を指すことが多いからである（曾 2019、王ら 2022）。二つ目は、本調査のインタビュー対象者について見ると、都市部、県庁所在地、さらに首都出身の大学生には「恵まれていない」家庭出身の学生がとても少なかったからである。

次に、3 人の属性を表 1 に示した。A24 は経済力はあまり高くないが、親からたくさんの愛情を受けた。また、学校での教師の助力のおかげで教育達成を実現した。A25 はとても貧しい家庭で生まれ育った。「勉強は運命を変える」と信じ、その信念を持って、どのような辛い状況に陥っても必死に努力している。A26 は親がいないケースで、自分の努力を通じて橋渡し型 SC を拡大し、教育達成を実現した。

表 1 インタビュー対象者の属性

番号	出身地	大学所在地	成長地	性別	大学レベル	学年	学系	きょうだい数	父親学歴	母親学歴	父親職業	母親職業	成績
A24	福建	北京	カウンティ	男	985	4年	医学系	2	専門学校	短期大学	死別	定年	優秀
A25	貴州	北京	農村部	女	985	3年	理系	3	高校	中学校	農民	農民	優秀
A26	雲南	雲南昆明	カウンティ	女	二本	4年	文系	一人っ子	行方不明	死亡	行方不明	死亡	優秀

（筆者作成）

3.2 質問項目

調査は半構造化インタビューによる。質問項目は、属性に関して、自己紹介（出身地、年齢、学年と専門、成績、課外活動の参加）、家に関する状況（家族の人数、経済状況、親の学歴及び職業、親子関係、きょうだい間の関係、親の子供に対する教育意識と教育期待など）などである。SC については、誰と情緒的相談を行うか、学業に関する情報を誰からもらったことが多いか、進路について誰と相談するか、生活費・教育費が足りない時に誰に援助してもらうか、これらが成績に与える影響を聞いた。また、親戚との親密度、親の人間関係が自分の学力に与える影響、隣里関係[8]などを尋ねた。次に「あなたの重要な他者は誰であるか。その人は何をしたか。どのような影響を与えたか。」という「重要な他者」についても聞いた。大学や専門を選んだ際の親と家族の態度、また誰からアドバイスをもらったか、親との関係については、親はあなたの進路についてどのような態度を持っているか、学業に対する影響は動力[9]、抵抗力[10]、圧力[11]のうち、いずれであるのかを聞いた。学業については、「家庭環境や経済状況にも関わらず、あなたはなぜ大学に合格し、大学で良い成績を保っているのか」、「学業でどのような努力をしたか」、「あなたにとって良い学歴はどのような意味を持つのか」などを聞いた。

4. 分析

4.1 貧困層に特有の文化資本と家族間の情緒的サポートからなる教育達成

A25 は中国最上位の大学（北京）に在籍している 3 年生であり、中国の南西部貴州省農村部に生まれ育った 21 歳の女子大学生である。姉 2 人、弟 1 人を持ち、出生順位は 3 番目である。父親の学歴は高校である一方、母親の学歴は中学校であった。父親の職業は工事現場での肉体労働であったが、怪我の後は農業をしている。母親は A25 が高校 3 年次の頃までは農業に従事していたが、高校 3 年次以降に高校の寮母になっている。このような家庭で A25 はどのように中国最上位の大学に合格し、教育達成を実現したのか。次に、A25 のライフストーリーを聞いてみたい。以下は彼女の語りである。

> 家庭はとてもとても貧しく、年末まで負債になった場合が頻繁にあり、さらに子供たちの授業料などを払えない状況だった。その頃は私の姉が大学に合格し、親戚から姉の授業料を借りたばかりなので、短期間でお金を借りることは難しかった。私はもう少しで高校に通えないところだった。最終的にはやっと親戚から授業料を借りることに成功した。高校生になってから、助学金と奨学金を得るために必死に勉強をした。経済面で一番感謝しているのは国家である。貧困層である私たちのための「精准扶貧」という国家政策がある。それは貧困層にある人々がお金をもらえる政策であり、トップダウンによる腐敗はなく、貧しい人々にもお金が届けられるので、お金のことを心配しなくて良かった。（中略）
>
> 大学に入ってからは、助学金と奨学金のために、必死に一生懸命に勉強している。P 大

（大学の略称）では、頑張って良い成績を取ると奨学金をもらえる。また、貧しい大学生に対する助学金ももらえる。大学に入ってからは、お金のことを心配しなくなった。（中略）

高校受験時、小さい村の中学校から卒業した私は、県庁所在地にある高校に合格した。奇跡であった。でも、当時カウンティの政策として、もし県庁所在地にある高校に進学することを諦めて、本カウンティの高校に進学すれば、1 万元（20 万円に相当）を奨励するというものがあった。1 万元は私の家庭にとって多大な金額だった。そして母は私がカウンティに進学することを勧めていた。正直に言うと、私は家の貧困を恨んだが、仕方ないので 1 万元のためカウンティの高校に進学した。カウンティの高校に進学するまで、私はカウンティに行くチャンスはスピーチコンテストのため行っただけであった。

A25 の家庭は、経済状況が厳しく高校の授業料を親戚に借りた。幸いなのは国が貧困層にある人にお金を供給したことである。金額は大きくないが国の支援のしくみが整ってきた今では昔よりお金のことを心配しなくても良くなっている。

また、大学では貧しい大学生のための様々な制度があり、学生にお金がなくても大学に通うことを可能にしている。それは貧しい家庭で生まれ育った A25 にとって大きな支援となっている。経済的な面では、国、大学のサポートは家庭がもたらす経済格差を縮小することができると見られる。さらに、大学では成績が優秀な者に奨学金を支給する制度がある。勉強に励んで良い成績を取れば奨学金を得られることが貧しい A25 のモチベーションを高めた。

貧困が A25 にもたらした負の影響もあった。貧困を恨みつつ、1 万元のため、省（日本の県に相当）における一番良い高校への進学を諦めた。幸いなことに、A25 はそれでも良い成績を取れた。また、省の高校でも、貧困層にある学生への経済的なサポートを得られた。現在通っている最上位大学も同じである。国の政策と学校の制度は A25 に経済的な安定をもたらすだけではなく、お金のために良い機会を諦めることなく安心して勉強することを可能にした。

以上の分析から見ると、A25 の学習動機は、一部は助学金と奨学金である。彼女の次の語りから、さらに詳しく A25 の学習動機を分析する。

私にとって他人との格差をなくす手段の一つは、必死に勉強することである。小さい頃から、私の家庭はずっと親戚などからお金を借りているので、他人の蔑視はたくさん受けた。でも仕方ない。私は必死に勉強して、他人の何倍も勉強した。良い成績を取れば他人との格差は少しは縮小するかもしれない。そのように頑張っても、友達など周りの人は私を励ましてくれるが、私はずっと自己否定をしている。私はよく「ただラッキーだ」「自分はそのような素晴らしい成績に値しない」という考えをもった。

ここから貧困がもたらす卑下感も A25 の学習動機であるとわかる。他人との格差を縮める

ため、頑張って勉強しているが、どんなに良い成績を取れても自分の努力を認められない。自分は他人より何もかも不足しているという卑下感を持っている。その「卑下感」は Bourdieu が述べた「ハビトゥス」ではないだろうか。Bourdieu が提出したモデル「界–ハビトゥス–資本」により、A25 にとって、貧しい家庭という「界」で生まれた「卑下感」という「ハビトゥス」が、「必死に勉強して、他人より何倍も勉強する」という行為に影響し、貧しい A25 に文化資本を与え、教育達成のための助力となった。

勉強が運命を変えると信じている。学業に勤しんできた十何年間、勉強は私の唯一頑張れることであった。私がしがみつくことのできる唯一のわらである。また、唯一の得意なことである。そして頑張らなければならない。

「勉強が運命を変える」という意識は程ら（2016）に指摘された貧困層に特有の文化資本である「運命を変える気」ではないだろうか。貧困層にある A25 にとって、勉強は「運命を変える」唯一の手段である。これまでずっと中国の「寒門貴子」は「教育を通じて運命を変える」ことを信じてきた。その信念を持ち、A25 は卑下感を持っているものの必死に努力している。このような強い運命感を持つことは「他人」よりも強い学習動機をもたらす要因と思われる。これも恵まれていなかった彼女が教育達成を実現した一つの「秘密」であろう。「運命を変えたい」気持ちと「卑下感」に A25 は囚われていたが、その間 A25 さんはどのようなことを行ったのだろうか。

引き続き努力する理由は、私の競争相手にある。私は元々1 人の先生を尊敬しているが、その先生は私と競争相手への扱いが違う。私は差別された。その差別と劣等感は私を鼓舞している。それは私の心理に影響し、そこから卑下感が生じた。でも彼女に勝つために頑張っている。実は私は他人と競争はしたくなく、元々勉強を頑張る理由は自分を良くしたいからだ。そして勉強において勝利したいという執念が強い。一生懸命に勉強に取り組んだら良い結果が出る。勉強を私の特長にしたい。（中略）

P 大に入れるとは思わなかった。私はその成績に値しないと思っているので、頑張っている。他の学生が昼休みにご飯を食べたり昼寝していても、私は宿題をしたり勉強をしたりしている。午後他の学生が授業を終えて部活動に出かける時も、私はずっと勉強している。時間を節約するため、いつも食堂には混雑していない時にご飯を食べに行く。ご飯が美味しくなくても構わない。できるだけ時間を節約して勉強に充てている。（中略）

私は理想主義で完璧主義だ。課題を作成する時は、できるだけ綺麗に作りたい。例えば、ある授業では毎週実験レポートを書く必要があった。他の学生は先輩のレポートを参考にして書く。私は 0 から作って、毎週徹夜して実験をしてレポートを書いた。涙が出てきて

も疲れても書いていた。勉強は私にとって良いものを得られる手段である。勉強を通じて、奨学金を得られれば、経済面を心配しなくてもよくなる。

A25 は学校と大学という「界」で戦っている。勉強は自分との競争であるという意識を持っているが、尊敬していた教員から差別され、心理的「勝利への執念」が燃えあがり競争相手がモチベーションを与えた。大学に入学してからは、自分が素晴らしい大学にふさわしくないという意識を持っているので、他者より頑張って勉強している。また、「涙が出てきても疲れても書く」という意識を持っており、課題を綺麗に作成したいという意識が教育達成の助力となっている。A25 のケースでは学校と大学という「界」での「勝利への執念」と、「大学にふさわしくない」というハビトゥスが教育達成にプラスの影響を与えた。また、程ら（2016）が指摘した次の傾向もみられる。貧困層の子供は他人の蔑視を拒否し認められたいという気持ちが強く、また優能感を得るため、成績を大変重視している。その意識があるため、成績が下がると自分を許せなくなる気持ちが強い。そして、さらに必死に努力し、良い成績を保つことにつながる。

次に、A25 の家庭と周りの人間関係が教育達成に与える効果を考察する。

父は短気な人であり、子供の教育に無関心である。さらに家のことには手を出さない。母は伝統的な女性であり、たとえ父に腹が立っても、子供のために離婚しない。黙って我慢している。でも生活の苦しみを味わい、子供にこのような生活を過ごしてほしくないので、小さい頃から私たちに「勉強しろ」と強く要求している。勉強を強く要求する理由は、家を救って貧困を脱するためではなく、ただ私の成績が良くなり、将来は良い進路を見つけられるようにという願いからである。でも母は勉強をまったくわからないので、私の成績が少し下がると多大な不安に陥った。（中略）

私は高校生の時、ずっと緊張と不安を抱えていた。なぜなら、 過去十何年間、私の省には北京最上位大学に合格する学生がいなかったためである。そして、高校は私に多大な期待をした。私の母も期待している。私が緊張と不安に溢れていた高校 3 年生の時、母は私の高校で寮母となった。母はお金を使うことにとても慎重な人だ。ずっと農業に携わっており、家の経済状況は厳しかったものの、給料が入るといつも私にたくさんのお菓子と牛乳を買ってくれた。さらに高い肉料理も。また、学習などまったくわからない母は、よく先生に私の学習状況と心理状態などを相談した。その時、私は「プライバシーの侵害だ」と思ってしまったので、よく母と喧嘩してさらにひどい言葉を口に出したりした。母はきっと傷ついた。でも母親としてずっと私の悪口などを許容して、不安によってもたらされる私の悪い行為をできるだけ理解してくれた。

程（2019）は、低位層にある親は子供に高い教育期待を持ち、子供にその教育期待を伝える

ことを指摘した。A25 の母親は、子供たちが自分と同じ運命をたどらないように、教育は運命を変えると信じ、子供に勉強することを強く要求していた。貧困層にある親たちはよくこのような教育意識を持っている。たとえ子供に対して民主的ではない（強制された）教育意識であっても、親の気持ちとしては子供のよい将来のため、自分のような生活を過ごして欲しくないという思いがある。

また、親の教育期待に関して余ら（2018）は、農村部貧困層にある親は教育を重視しているが、子供に対する教育期待が抽象的で、子供の勉強を見る、進路をアドバイスするなど具体的サポートではなく、子供への精神的・心理的なサポートを提供すると論じた。A25 の母親は高学歴ではなく、子供の心理状態がよくない時は先生に積極的に相談していた。また、中国人にとってお菓子は生活の必要品ではないので、お金が不足している時は購入しない。極めて節約家である A25 の母親も、時に子供のためにお菓子やさらには高額の肉料理を買ってあげたりした。A25 はこのことを思い出し、「母は私の重要な他者である」と言った。

> もう 1 人の「重要な他者」は私の姉である。母は生活のためにずっと畑で農業をやっていたため、私は小さい頃から姉に見守られて育った。姉は何か困ったことがあった時、いつでも電話をかけて相談できる人である。彼女はいつでも私を慰めたり、励ましたり、解決策を考えてくれる。私の心では、姉も「母」である。年齢差が小さいので、彼女は私のことをさらに理解している。（中略）
>
> 高校に入ったばかりの時、省のような賑やかなところはあまり行ったことがないので心から恐怖を感じていた。冬に暖かいコートももたない私にとって、その賑やかさは私に劣等感を感じさせた。しかし、姉に「頑張って勉強して、できるだけよい成績を取ろう」と言われて、成績を上げることで劣等感を減少させようと思った。しかし、どのように勉強すればいいのか姉もわからない。自分で模索しながら勉強した。

A25 にとって姉は母親に相当する存在であり、「重要な他者」である。姉は情緒的サポートを A25 に与えた。勉強方法に関する情報的サポートを姉は提供できないが、A25 の情緒的な問題についてはよく相談にのる。それは A25 の教育達成に助力しただろう。

> 私が生まれ育ったのは里山の村であり、私はその村では十数年ぶりの、最高位の大学に合格した存在となった。P 大に合格した時、村の人々は自発的に銅鑼を叩いて太鼓を打って、横断幕を作ってくれた。私は彼らの子供ではなかったが、自分の栄光のように祝ってくれた。彼らは純朴でいい人である。（中略）
>
> 授業料などがない時、親戚からお金を借りることが難しい時、村民に借りたことがある。

村からの情緒的サポート、手段的サポートもあったことがわかる。村民は自分の栄光のように A25 のことを祝ってくれた。それはずっと劣等感を感じている A25 にとって「重視された」と感じさせた。また、授業料が足りない時に村民がお金を貸してくれたことが教育達成に良い影響を与えた。そのおかげで、経済的理由で学校に通えないことがなくなった。平塚（2006）は橋渡し型 SC は中流クラスの子供が独占する資本であると指摘した。しかし、A25 のような農村出身者の事例は、貧しい人々の中で、橋渡し型 SC が教育達成に正の影響を与えていることを示している。A25 にとっては、村民という橋渡し型 SC こそが彼女に情緒的・手段的サポートを提供してくれたのである。

4.2 橋渡し型 SC の教育達成への影響

A26 は雲南省の二本大学に在籍している 4 年生である。出身地は広西省の県庁所在地であるが育ったのは雲南省である。一人っ子である。幼少期に親が離婚し、父親と連絡が取れなくなった。母親は癌で亡くなった。以降、母親の故郷である雲南省に戻り、叔父家族と共に暮らす。

> 叔父の家は農村部にあり、貧困状態にある。叔父は 6 人家族で、叔父、叔父の奥さん、叔父の息子さんご夫婦と 2 人の子供である。叔父と叔母は村で住んでいて、息子夫婦の 2 人の子供の世話をしている。家の稼ぎ手は兄とその奥さんである。彼らは工場で働いており、給料が少なく、扶養人数が多いので、経済状況が良くない。彼らの負担をさらに大きくしないよう、私は中学校からずっと省の中学校の寮に住み、自力でたくさんのことを解決している。（中略）
>
> 叔父の学歴は小学校以下で、教育に関してはよくわからない。また、2 人の孫がいて、孫の幼稚園の授業料も高い。私が高校受験を終えた時、叔母は私が進学することについて納得しなかった。雲南省の村では中学校卒業後、見合い結婚するケースが多い。貧困であるため、労働力にならない女の子は良い値段で誰かの嫁さんになったほうがよいという意識があるからである。大学受験後、兄の奥さんは「進学してはいけない」と言った。私は突然その家に来たので、彼女らが戸惑っていることは理解できる。でも叔父は「彼女が合格すれば進学してもいい」と大賛成だった。彼のおかげで、私は高校、大学に進学できた。

A26 は両親がいないケースで、叔父の家族と住んでいた。貧困で学歴の高くない叔父が、家族の圧力に抗って A26 を高校、さらに大学に進学させた。A26 の教育達成にチャンスを与えたのである。叔父がなぜ A26 を家族の圧力に抗って進学させたのか、その理由は不明だが、「彼女が合格すれば進学してもいい」という言葉をみると、程ら（2016）が述べた中国の伝統的な儒家文化の影響があるのかもしれない。最低層にある人でも知識に対する畏敬感を持っており、子供に教育を通じて良い生活を送ってほしいと思うのである。

私にとって、叔父は人生の屋台骨である。私の生活費が本当に一元もない時、叔父が援助をしてくれる。でも彼も貧困なので、大学に入ってからは生活費と授業料を補助金から補足している。また、週に 8 時間の家庭教師のアルバイトをしている。家庭教師をしている時、生徒の成績が上がると、その親に「もし私の能力に納得されたなら、他の人に私を推薦してもらえるでしょうか。生活費が必要なので」と言った。アルバイトと勉強を両立することは大変だったが、しょうがない。（中略）

家庭教師をしている時は、一生懸命に子供に知識を教える。子供の成績が上がると、その親は他の生徒を紹介してくれた。生徒の家は私が住んでいる場所から距離が遠くて通勤することは辛かったけど、生活費を稼ぐためにはよかったと思う。その時、公務員である生徒の親と知り合った。彼は私を評価してくれたので、〇〇局に私を推薦して、その夏休みにアルバイトとしてその局を手伝った。（中略）

私にとって、〇〇局でアルバイトをするということは非常に貴重な機会であった。前からずっと生計を立てられる仕事を見つけたいと思っていたが、〇〇局のようなところは全く想定していなかった。そしてアルバイトであっても一生懸命に頑張った。どのような仕事でも積極的に取り組んだ。今もそこでインターンシップを行っている。卒業したら、正規雇用職員になるように頑張っている。

A26 の叔父は彼女にとって屋台骨のような堅い存在である。中国では、親戚との親密さが強い。特に親の両親、親のきょうだいなど血縁関係が近い人は「家族」と呼ばれる。親がいない場合、親戚という SC が大きな役割を担っている。叔父の学歴は高くなく、A26 の教育達成に直接的な力を与えないかもしれないが、彼女に心理的情緒的なサポートを与えている。そのサポートにより A26 の進学につながり、さらに教育達成を促した。

A26 の大学進学後、叔父は貧しいため有力な手段的・経済的サポートを与えられなかった。A26 は生活費、授業料のために一生懸命に勉強とアルバイトを両立した。補助金を除いて、自力で生活費・授業料を稼いだ。また、家庭教師として関わった生徒の親という橋渡し型 SC を積極的に拡大して、生活費を稼ぐという手段的サポートを得るだけではなく、卒業後の進路を選択するためのサポートも得た。家庭教師のアルバイトで知り合った生徒の公務員である親は進路についてもサポートをしてくれた。「生計を立てられる仕事」という言葉は A26 のインタビューでよく使われた。大学の専門を選択する時、進路を探す時、他のインタビュー対象者より、A26 にとって「生計を立てられる仕事」であるかどうかが重要となっている。

橋渡し型 SC を拡大する際、A26 は自分の努力と仕事に対する積極的な態度を通じて、他人の信頼と納得を得て、SC を拡大した。そして、その SC を活用し、家庭教師になる機会と生活費・授業料を稼ぐチャンスを獲得しさらに進路選択の上でも有用に働いた。A26 の事例も、平塚（2006）が言うところの、橋渡し型 SC は中流クラスの子供に独占される資本であるという

論に抵抗するものである。非常に恵まれない大学生にとって特に家庭内の結束型 SC が不足している場合には、自身の文化資本を除いて橋渡し型 SC は彼らを救う手段であると推定できる。

成年後、私の家族は私のことを放任していた。大学の志望を決定する時、大学の専門分野を選ぶ時などは、自分で考えた。専門を選ぶ際、高校の先生が何もわからない私にいろいろなアドバイスをしてくれた。私は英語が得意なので、英語を選んでも良いとアドバイスを受けた。また、将来何とか仕事を見つけるようにと言われた。（中略）

私はずっと母の死を気にかけていた。当時の私は何もわからず、母が病気になってしまったこともわからなかった。自分を責めている。いつも「早く分かれば救えた」と考えていた。そして精神的な病気にかかった。とてもとても悲しい時には、友達に話す。彼らは私の話を聞いてくれて、励ましてくれる。とても感激する。（中略）

勉強の情報については、ほぼインターネットで情報を収集することが多い。例えば、高等英語レベルのテストの準備をする時、インターネットで他者の復習方法を学び、他者の経験を見聞きして、自分なりに復習する。また、インターネットでは無料のコースが放送されているので、それも見ながら勉強する。

A26 は進路に関して、家族からのサポートが少なく、高校の教師は彼女の長所を了解し、彼女の状況を理解した上で進路についてアドバイスをした。情緒的なサポートについては、気分が落ち込んだ時に友達が大きな役割を果たしている。大学入学後のテスト準備に関する情報については、ほぼインターネットで学んでいる。A26 にとって、親、家族といった結束型 SC より教師、友達とインターネットという橋渡し型 SC が教育達成に役立っている。しかし、「重要な他者」は誰かと尋ねたところ、「自己」と答えた。

「重要な他者」はいない。もしあるとするならば、その「重要な他者」は自己である。私はどんなに辛くても自分のことを諦めなかった。2 回自殺しようとしたが、2 回とも踏みとどまった。なぜなら、頑張って稼いだお金がまだ残っているから。お金は私に安心感を与えてくれる。（中略）

私は勉強することが嫌いだが自分を追い込んでいる。勉強しないと将来どのように生きていけばいいのか。私は村の他の女性のように愛情がない中で誰かと適当に結婚したくはない。このことを考えると恐怖を感じる。そして生計を支えられる仕事を見つけられるように、自分を追い込んで資格試験を受けたり、成績が上がるように勉強している。（中略）

私の得意科目は英語である。大学入学後、初めて英語のテストを受けた時、とても長くて難しい問題用紙を初めて見た。私は回答し終えることができなかった。結局、不合格であった。専門科目なのに不合格だったのでどうしようと思って、多大な不安に陥った。以

降、私は毎日必死に英語を練習した。初めて取り組んだ時、本当に難しかったが、私は自分を追い込んで、毎日必ず練習して、わからない単語があれば一つ一つ意味を調べ理解し暗記した。最終的に、英語の点数はやっと上がった。

「重要な他者」というのは、「自己」にとって影響が大きい人を指す。その「自己」を「重要な他者」とする人は少ない。A26 は親がいないケースであるため、幼少期から安心感をもてていない。叔父が「屋台骨」で、情緒面が不安定な時は友達が話を聞いてくれ、教師が進路面でのアドバイスを与えてくれたが、何より「自己」が一生懸命に頑張っているという。自殺したい気持ちに陥った際にも自分で踏みとどまった。勉強することは嫌いだが、生計を支えられる仕事を見つけられるように自分を追い込んで勉強していた。専門である英語の得点が合格ラインではなかった時、必死に英語の練習をした。「自己」を「重要な他者」とみなす大学生は、他人の助けはあるものの、自力で勉強し成長する場合が多いと考えられる。OECD（2018）によれば、教育達成に対するリスク（例えば、経済・文化・SC が低い）があっても、予想以上に教育達成を実現する事例があり、それをアカデミック回復力（Acdemic resilience）とした。A26 にとって、自分自身を「重要な他者」とみなして自己に向き合い努力できたことがアカデミック回復力として作用し教育達成の助けとなったと考えられる。

4.3 結束型 SC（親子関係を含む）と界がもたらす教育達成

A24 は福建省で生まれ育った大学 4 年生で、北京最上位大学に在籍している男子大学生である。父親は汽車修理工だったが亡くなっている。母親は現在 70 歳で、小学校教員であったが定年退職している。親の学歴については、父親は中等専門学校（高校に相当）を卒業した一方、母親は高等専門学校（短期大学に相当）を卒業している。A24 には 1 人姉がいる。A24 の出生前には兄がいたが、20 歳の時に病気で亡くなった。家族たちは両親の年金で過ごしている。

親が 48 歳の頃に私が生まれた。今は 70 歳である。お兄さんは私が出生する前に亡くなった。お姉さんもいるが、養子だった。私が生まれると私を深く愛してくれた。親は歳を取り退職した後は、経済状況はあまりよくないができる限りのことをしてくれている。愛情に満ちた家庭に生まれて、私は彼らに恩を返せるように一生懸命に勉強している。（中略）

アカデミック・キャリアにおいて、親は私にモチベーションを与える場合が多いが、圧力もある。親の学歴が高くないので、私はアカデミック・キャリアにおいて何かあった時、親から何もアドバイスを得られない。親はいつも「父と母は役に立たないので、自分で頑張らなきゃ」と私に言ったが、私はそれを聞くと悲しかった。私にとって、親は愛情深い家庭を与えてくれた。私を深く愛している。いつも応援してくれる。性格がよくて優しい親である。私はとても満足している。親は生活のためにとても辛い思いをしている。彼ら

のために、頑張って勉強して、いい点数を取って親を喜ばせたい。（中略）

A24 は愛情に満ちた家庭で生まれ育った。親は歳を取って仕事ができなくなり年金で過ごしているが、優しく、できる限り最善のことを子供にしてくれるので、A24 に多大なモチベーションを与えている。親は学歴が高くないので、学業に関することを教えられないが、精神的・情緒的なサポートを与えてくれている。呂ら（2021）が指摘したように、良い親子関係は A24 の教育達成に積極的な影響を与えた。その影響メカニズムは親子間の愛情を通じて A24 に「モチベーション」を与え、親への恩を返せるように勉強する意欲を高め教育達成を実現した。

お姉さんも私を愛している。お姉さんは高校卒業後進学しなかった。私が大学に入った時、パソコンなどを送ってくれた。お姉さんの経済状況も悪いので、生活費などはくれないが、お小遣いをくれた。小さい省出身の私は初めて北京のような大都市に入った時、どこか違和感を覚えた。そして姉がお金を送ってくれることは、私に自信を与えた。

姉はできる限り A24 に手段的サポートを与えていた。姉からの金銭的なサポートは A24 に自信を与えた。今まで、親と姉が A24 に与えた情緒的・精神的サポート、手段的・金銭的サポートは一生懸命に勉強することへのモチベーションを与えてくれた。親と姉の学歴が高くないため、具体的な学業に関することは教えてもらえず、A24 自身で努力しなければならないことには少し圧力を感じたが、家族の支えに対し「恩を返そう」と努力している。それは、程ら（2016）が述べた貧困層特有の文化資本、「親が大変であることを念頭に、家族のために努力する気持ち」を生かして教育達成を行うパターンであろう。

次に、情報的サポートについて、大学志望願書を書いた際の事例をもとに分析を行う。

大学志望願書を書いた時、家族ミーティングを開いて親に相談した。私は医学部を目指した。その考えを親に話したら、親は学校の先生に相談してくれた。その後、親は先生に相談した結果としての志望大学の候補を私に伝えた。最後に、私はその中で自分が一番行きたい大学を選んで、志望願書を書いた。

A24 の両親は自分の SC を使って、大学志望願書の作成にあたって A24 に情報的サポートを行った。大学について知識が全くなくても、両親は A24 の考えを聞いて尊重した上で、教師から情報を得て A24 にその情報を伝えた。これは親の橋渡し型 SC が A24 の進学に影響を与えることを示している。また、親は A24 の結束型 SC として、進学に影響を与えたこともわかる。親の結束型 SC であっても、橋渡し型 SC であっても、親子関係の良好さを通じて、A24 の教育達成に良い影響を与えた。それは Coleman（1988＝2006：223）が指摘したように、親の SC は

子供とのコミュニケーションを通じて教育達成に影響を与えるという議論と合致している。

それでは、家庭を除き、A24 の教育達成に影響したものは何だろうか。

> 私のアカデミック・キャリアにおいて、影響が大きいのは高校の先生である。実はその時私の学業成績は中位層くらいにあった。でも、先生は私が才能がある人だということを信じてくれて、私の世話もしてくれた。知識を教えるだけではなく、奨学金などのチャンスがあれば私に教え、たくさんの助けとサポートをしてくれた。最終的に、大学受験時には省内でナンバーワンの成績となり、P 大に合格した。（中略）
>
> 私は小さい頃から、ずっと良い学校に在籍していた。小学校、中学校、高校、さらに大学の雰囲気は自由である。どの学校も、学生に大きな圧力を与えなかった。また、私はずっと一番良いクラスで勉強していた。最高の先生、最高の資源、最高の雰囲気が学校には溢れている。それも教育達成を実現する上で大切な要因である。

アカデミック･キャリアにおいては､高校の教師が A24 にとっての影響が大きい存在である。馬暁丹（2021）は教師の学生への学業期待が学生の教育達成に積極的な影響を与えると述べた。元々学業成績が中位層にあっても「才能がある」と伝え、精神的・心理的支えと情報的サポートを A24 に提供した。最終的に、A24 は最上位の大学に合格した。小学校から大学までの「界」も A24 の教育達成に影響した。最高レベルの学校、クラスでの雰囲気が教育達成を促した。

5. 考察

厳しい社会状況では、恵まれない大学生は教育達成を実現することが一層難しくなる。恵まれた大学生より多くの努力が必要であるだろう。しかし、それでも教育は彼らにとって将来を変えるための唯一の手段である。A25 が強調したように、「しょうがない。頑張るしかない。」貧困層にある人々は、A26 が言うように、「もし頑張らないと、愛してなくても生活のために誰かと適当に結婚する」しかないのである。

本稿では、まず、親子関係、学校という「界」から生まれたハビトゥスと資本が教育達成に与える影響について、質的調査を通して明らかにした。経済資本が乏しいが幸せな家庭で生まれ育った A24 にとって、家庭という「界」において、家庭は彼の「屋台骨」であり、家族間に溢れている愛情は A24 に勉強に励むためのモチベーションというハビトゥスを生み出した。A24 の親は職業威信スコアが高くない仕事についており、高等教育について知識はないが、息子のため一生懸命に自分の SC を用い、進路に関する情報を集め、A24 の教育達成を助けている。親の SC は、良好な親子関係を通じて A24 に受け継がれ、教育達成に助力した。家庭以外では、学校という「界」で、元々成績は中位層であったが、教師から「才能がある」と励まされたことから、その教師の励みとサポートも教育達成に助力した。

次に貧困層特有の文化資本と橋渡し型 SC が教育達成に与える影響について検討を加えた。A25、A26 が教育達成を実現した際に、鍵となる資本があった。A25 は国と学校・大学から経済資本のサポートを得た。A26 は橋渡し型 SC を活用し、生活費・授業料さらにインターンシップを獲得した。その鍵となる資本に関して見ると、A25 は貧困層特有の文化資本「運命を変える気」を使って、必死に努力し勉強して奨学金・助学金をもらった。また、家庭が非常に貧困状態にある場合は、「精准扶貧」という政策が助けとなった。自身の努力と国、学校・大学の経済的サポートが A25 の教育達成の要因といえよう。A26 は生活費・授業料のために働く時とインターンシップを見つける時に SC を活用している。家庭教師のアルバイトに熱心に取り組んだ際、生徒に知識を教え成績が上がったことにより、彼女より上の階層にある生徒の親が彼女を評価しサポートしてくれた。鍵となる資本は、人々では普通に得られるものではないが、A25 と A26 は自身の努力を通じて得ることができた。その努力につながったのは、「運命を変えたい」気持ちであると推測できる。

＜注＞

1) 全国でランキングトップ 39 位の大学（一流大学）
2) 全国でランキングトップ 221 位の大学（一流大学）
3) 221 位以降の上位大学（良い大学）
4) 四年制大学の真ん中の大学（比較的良い大学）
5) 四年制大学の下位にある大学（普通レベルの大学）
6) 中国では、省、市の下部にあり、タウンシップと農村部の上部にある行政区画
7) 中国では、省、市、県の下部にあり、農村部の上部にある行政区画
8) 近所の人々との関係
9) やる気を与えること
10) 支障が出ること。例えば、親の夫婦関係が悪く毎日喧嘩していると、その状況は子供の勉強にとって障害となる。
11) ストレス。例えば、親が「勉強を通じて家族の運命を変えてほしい」と頻繁に子供に言い聞かせる場合、子供の心理にストレスを与えることになる。

＜参考文献＞

Bourdieu,P., J.C.Passeron,1970,*"La reproduction: Éléments d'une théorie du système d'enseignement"*, Minuit. (=1991,宮島喬訳『再生産―教育・社会・文化』藤原書店) .

曹春春（2013）「家庭资本与大学生学习成绩关系的研究―以 A 大学为例」安徽師範大学 2013.03：1-48.

陳嘉怡（2022）「家长主义视角下中产阶层的养育实践与其教育焦虑的关系研究」修士論文（広州大学）.

程猛（2019）『读书的料"及其文化生产―当代农家子弟成长叙事研究』中国社会科学出版社.

程猛，康永久（2016）「"物或损之而益"―关于底层文化资本的另一种言说」清华大学教育研究 2016.07=37(4) : 83-91.

Coleman, J.,1988, "Social Capital in the Creation of Human Capital", *American Journal of Sociology*,94 : 95-120.(=2006, 金光淳編訳「人的資本の形成における社会関係資本」野沢慎司編・監訳『リーデングスネットワーク論：家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房).

DiMaggio,Paul.,1982, "Cultural Capital and School Success: The Impact of Status Culture Participation on the

Grades of US High School Students." *American Sociological Review*, 47：189-201.

平塚眞樹（2006）「移行システム分解過程における能力観の転換と社会関係資本―『質の高い教育』―の平等な保障をどう構想するか？」教育学研究 2006:12=73（4）：391-402.

林莞娟・張戈（2015）「教育的代际流动：来自中国学制改革的证据」北京師範大学学報（社会科学版）2015（2）：118-129.

劉玲（2019）「布尔迪厄资本"符号"运作研究—兼谈"寒门难出贵子"」南宁師範大学学報（哲学社会科学版） 2019:12=41(1)：74-80.

吕素珍・黄修文（2021）「地方综合性大学学生家庭文化资本对其学习投入的影响研究—以 J 大学为例」江汉大学学报（社会科学版）2021.10=39(1)：104-114,128.

馬暁丹（2021）「高校农村学生获得高学业成就的保护性因素及策略研究」修士論文（東北師範大学）.

OECD. 2018, *Equity in Education: Breaking Down Barriers to Social Mobility*. Paris: OECD Publishing.

Putnam.R.D., 2000, *Bowling Alone:The Collapse and Revival of American Community*, Simon & Schuster. (=2006, 柴内康文訳『孤独なボウリング―米国コミュニティの崩壊と再生』柏書房).

Sewell,William H.,Archibald O.Haller,and Alejandro Portes,1969, "The Educational and Early Occupational Attainment Process, *"American Sociological Review*,34(1)：82-92.

唐彬（2009）「"重要他人"对大学生社会化的影响研究—以一所理工科为主的综合性大学本科生为例」修士論文（華中科技大学）.

田晨（2020）「从学业评价指标分析"重要他人"对大学生学业质量的影响」 郑州航空工业管理学院学报（社会科学版）2020.02=39(1)：104-112.

童馨楽・潘妍・楊向陽（2019）「寒门为何难出贵子？基于教育观视角的解释」中国经济问题 2019.7（4）：51-67.

王兆鑫・趙新生・宋文玉（2022）「寒门学子的进阶之路—由"寒门贵子"现象引发的对底层家庭孩子教育获得的思考」中国教育政策评论 2022.08：163-177.

呉雨婷（2022）「個人の社会関係資本と親の社会関係資本か学力に与える影響―日中の大学生を対象として―」現代社会文化研究（新潟大学）2022.02(74)：53-70.

呉雨婷（2022）「結束型社会関係資本が成績に与える効果とその背景―日中の大学生を対象として―」現代社会文化研究（新潟大学）2022.11(75)：67-84.

楊一婷（2019）「Y 大学本科生"重要他人"的质化研究」修士論文（渤海大学）.

余秀蘭・韩燕（2018）「寒门如何出"贵子"—基于文化资本视角的阶层突破—」高等教育研究 2018.02=39(2)：8-16.

曾東霞（2019）「"斗室星空"：农村贫困家庭第一代大学生家庭经验研究」中国青年研究 2019.07：38-42,83.

趙紅霞・高永超（2016）「教育公平视角下我国教育代际流动及其影响因素研究」教育研究与实验 2016（1）：28-32.

張継平・馬会麗（2023）「"寒门难出贵子"的现实表征、症因所在及破解路径—文化资本理论的视角」教育与教学研究 2023.05：1-14.

主指導教員（杉原名穂子准教授）、副指導教員（福島治教授・松井克浩教授）